令和２年3月吉日

チーム関係者各位

三重県軟式野球連盟

今後の学童・少年の部の運営についてのお願い

　時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

　平素より、三重県軟式野球連盟の諸事業にたいしまして、格別なご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

　さて、この10年ほどの間に全国的に若年層の「野球離れ」が進み、その影響から県内の学童・少年の部各チームの活動や大会運営等におかれましては、大変なご苦労をお掛けしていることと存じます。具体的には全国で、この10年間のうちに学童のチームが3000以上なくなり、少年の部については中体連の部員数がこの10年間で半減しています。三重県においても、学童、少年と野球に打ち込む子どもたちは減少してきていると捉える必要があります。そのような現状の中で、これまで通りの活動が年々きびしくなっていくことが予想されます。

　このまま、「野球離れ」が進んでいきますと、生涯を通じて野球に親しむ人材が少なくなっていくことで、軟式野球が築いてきた日本独自の文化が徐々に衰退していくことにつながります。昨年、世界野球WBSCプレミア12において日本（侍ジャパン）が世界一を成し遂げました。このような輝かしい実績はこれまで長きにわたり根付いてきた軟式野球の文化が下支えしているといっても過言ではありません。しかし、スポーツが多様化している中で、野球人口が減少していく状況は全国的にも、三重県としても大きな課題となっていることは事実であり、当連盟といたしましても大変危惧いたしております。

　そこで、子どもたちが野球をはじめる「きっかけ」をつくり、純粋に野球を楽しむことで、野球人口全体の分母を広げていくことが、今後必要不可欠となります。子どもたちが野球をはじめる入り口は軟式野球の学童・少年の部が中心となるので、入り口を広く、**「だれにとっても入りやすい環境」**をつくっていくことが今後の野球界には求められています。野球は基本となるキャッチボールの技術を習得するまでにどうしても時間と労力が必要となることを考慮し、地域によってはティーボール教室の開催や小学校低学年向けの体験教室の開催など、すでに工夫を凝らしながら分母拡大に向けて取り組んでいただいてる事例も多々あります。今後はそのような活動に限らず、地道な活動を無理なく展開していくことが、野球離れの現状に歯止めをかけることにつながります。また、入り口を広げ、だれにとっても入りやすく、継続して取り組める環境をつくるために、各チームが向き合わなければいけない諸課題があることも考えていかなければなりません。

　そこで、当連盟といたしましては、連盟に所属するチームの皆様が以下に記載した点に配慮した活動を展開していただき、**「だれにとっても親しむことのできる野球」**を持続可能な枠組みの中で提供していけるよう、ご協力いただきたいと考えています。

なお、以下の項目につきましては当連盟や全軟連が減少の要因として考えられるものをあげさせていただいておりますので、今後の取り組みと具体的な改善策を含め、ご協力ください。

**≪野球離れの要因としてあげられる諸課題と今後の取り組みについて≫**

1. **スポーツの多様化による影響**

他のスポーツ選手の世界的な活躍などスポーツが多様化してきている。

今後の取り組みについて

⇒これまでの自然と野球に出会う環境が当たり前と考えてしまい、子どもたちが野球と出会う機会を積極的に提供できていないのではないか。今後は体験会などの**「出会いの機会」**を積極的に提供していく必要があります。

1. **チーム運営が勝利至上主義に偏っている**

野球に親しみ、競技そのものを好きになるところが入り口となるはずが、勝利優先となってしまいがちで、好きで始めたとしても、そのような中でバーンアウトや傷害により競技継続ができなくなるケースがあります。

今後の取り組みについて

⇒チームとして勝利を目指すことは必然的であるが、その中で本来の目的（青少年の育成）を見失わずにチーム運営をしていく必要があります。また、投手の投球制限だけでなく、アウトオブシーズン（試合を行わない期間）を設けるなど、発達段階の子どもたちの傷害予防に努めなければいけません。

1. **子どもがチームに加入することによる保護者負担の増加**

それぞれのチームに所属する子どもが少なくなることで、「だれにとっても入りやすい」、また継続しやすい状況が薄れていっている。また、用具代の高騰による経済的負担もあります。

今後の取り組みについて

⇒用具代の高騰は各チームでご対応いただくのは難題かと思います。しかし、その他の部分（送迎など）の負担軽減は早急な対応が求められています。負担になることがわかっている状況では、新たに野球を始めることが保護者にとって大きなハードルとなります。**「野球をやりたいけれど、できない」**という子どもをつくらないためにもできる限りの負担軽減策を講じていただくようお願いします。

1. **指導者の不足**

継続して指導する指導者が不足している状況も危惧されます。指導者が変わっていくと、チームとして大切にするべき「理念」が子どもや保護者に伝わりにくくなります。

今後の取り組みについて

⇒それぞれのチームが大切にしている「理念」をしっかり発信するチーム作りをしていく必要があります。子どもを育てるということを理念として、それぞれのチームが持続可能な枠組みの中で発信していかなければいけません。そのためには、指導者も分担や休養など負担を分け合う工夫が必要です。